

## 鹿島市総合教育戦略会議（第16回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成29年7月11日（火）15時00分から17時10分まで

2 開催場所 鹿島市民交流プラザ「かたらい」3階 教養娯楽室

### 3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、江島教育委員会教育長、田中教育委員会委員、中島教育委員会委員、木原教育委員会委員、田代教育委員会委員
- ・特別招集 中島鹿島小学校校長、熊本能古見小学校校長、森山古枝小学校校長、中村浜小学校校長、中原北鹿島小学校校長、杉本七浦小学校校長、中村明倫小学校校長、白仁田西部中学校校長、野崎東部中学校校長
- ・市長部局 有森総務部長、大代総務課長、江口人権・同和対策課長、有森市民部長、染川福祉課長、事務局（総務課職員 堀、吉田）
- ・教育委員会部局 寺山教育次長兼教育総務課長、岡指導主事、山崎生涯学習課長
- ・外部関係 なし
- ・傍聴 1名

### 4 確認事項及び協議事項

- (1) 第15回鹿島市総合教育戦略会議（H29.5.1）の議事録について
    - ・議事録素案の内容を確認
  - (2) 学校現場の現状と教職員の働き方について
- 5 出席者の発言のとおり

### 5 出席者の発言

#### (1) 概要

司会：有森総務部長

#### 1 開会（有森総務部長）

#### 2 市長あいさつ

樋口市長 改めましてこんにちは。今日は教育委員の皆様と各学校の現場で活躍しておられる先生方とお話ができるということで、私も楽しみにしております。元々教育委員会というのは、市長は出ない会議だったんですよ。改めて、教育関係の法律が変わりましてから、市長としてというより、市民の代表として市長が出席するというように仕組みが変わりました。その中で、どうも現場の先生方と市民の皆さん方、特にPTAの皆さん方との認識が少しかみ合っていないところがあるんじゃないかという話がありまして、是非校長先生方にお話を聞かせてもらいた

いなと思っていたタイミングでありました。是非忌憚の無いご意見をお聞かせいただきたいと思います。何がかみ合っていないかという、いくつかあると思うんですけど、学校の現場でPTAの皆さんや地域の皆さんが思っておられる以上に先生方が忙しい、だから地域のニーズとかPTAのニーズに答えきっていないということがありまして、どうすれば相互に納得がいくようにできるんだろうと何度かテーマに話をされております。今日は是非そういう観点からお話をお伺いしたいと思っております。是非よろしくお願ひします。

### 3 確認事項

第15回鹿島市総合教育戦略会議（H29.5.1）の議事録について  
議事録（素案）の内容確認

### 4 協議事項

#### (1) 学校現場の現状と教職員の働き方について

（大代総務課長 資料1 鹿島市子ども教育大綱、資料2 鹿島市子どもの教育に関するアンケート調査について説明）

それでは、本日の協議事項、学校現場の現状と教職員の働き方についてということで、今回は初めて校長先生をお迎えしていますので、経過を説明させていただきます。資料1 鹿島市子ども教育大綱をご覧ください。平成27年4月から新たな教育制度が始まりまして、市が行う総合的な施策の大綱を定めるということになっております。鹿島市ではこの総合戦略会議において大綱を定めたところであります。平成27年度は、この大綱を定めるために、10回に渡ってこの総合教育戦略会議を行いました。その間、市長と区長会、市長と小中学校のPTAの代表者の皆さんと意見交換会を実施しまして、市民の皆様の意見を十分に反映させた上でこの大綱を策定しております。計画の期間は5年間、平成28年4月から平成33年3月までとしております。計画の内容としましては、子ども達の理想とする姿を心と体、そして学力について調和のとれた成長と、その過程で個性を磨く、ということ子ども達の理想とする姿としております。3ページの基本方針として、小学校・中学校・保育所・幼稚園を含めた学びの場と、家庭と地域の3つをお互い連携を強めていこうというかたちをとっております。28年度は、大綱に基づき施策を展開していくための参考に、アンケートをとっております。このアンケートの結果が資料2になります。これは平成28年5月に行っておりまして、保護者、民生委員、区長などにお配りして意見を聴いたところです。質

問の内容は、現在の鹿島市の義務教育についてどう感じているか、教育委員会の組織や働きをどのくらい理解しているか、子どもの教育について望むこと、などの問いかけをしまして、3ページ以降がアンケート集計の結果です。こういったことを踏まえて昨年の6月に総合教育戦略会議を開催したところでございますが、協議の項目として、教職員の多忙化、道徳としつけについて、それから教育委員の人数について、という項目が問題ではなかろうかということで、この3つを重点的に協議することになりました。教育委員の人数については、現状のままで良いと話がついたところですが、道徳としつけについて、それと教職員の多忙化について、ずっと昨年の6月から本日に至るまで、協議をしているところであります。教職員の業務量について、どういったところが以前と比べて多くなっているのか、市や県、国からの調査ものが多いとか、照会する文書が多いとか、部活動とか、不登校などいろんな問題がでてきましたが、実際、現場の生の声を聞いてみなければということで、本日学校の校長先生をお呼びしてお話を聴いてみようということになったわけでございます。レジュメに協議事項の要点整理ですけれども、教員の多忙化が社会問題化する中で、本市における学校現場の現状を知り、共有したいということや、市内に勤務されている先生方がどのような働き方をされているか校長先生にお伺いしたいと思います。2ページの学校現場の現状と教職員の働き方について、現状はどうか、キーワードとしてここに書いております。学級崩壊とか、指導力不足教員、学力向上、いじめ、発達障がい、授業時間の増、支援員、不登校、部活動、調査ものといういろんなキーワードがあります。3ページにおきましては、教員の過重な仕事ということで、最近言われている過労死ラインとかのキーワードをここにあげております。その一方、子ども達のなりた職業というところでは、教職員というのは、昔も現在も比較的上位を維持しているということで、人気がある職業と言えるようです。要点の3つ目としては、私達鹿島市でできること、教職員の多忙化を解決する糸口があるのか、どうすれば負担を軽減できるのか、そういったことについて率直な意見をいただきたいと思っております。事務局からは以上です。

#### (校長先生からの意見)

##### ○発達障がい・不登校の子どもの対応など

- ・私達が教員になったころと比べたら、比較にならないくらい学校は多忙化している。理由の1つは児童生徒が多様化していること。簡単に言うと手がかかるような生徒が非常に多くなった。
- ・多忙化の要因の一つに発達障がいの子供達が多くなるようになっている。

ところが通級指導教室が開設されているのは、小学校で3校、中学校で1校。その通級指導を受けているのが小学校で45%、中学校は約20%と低い。指導を受けることができない子ども達は、終日通常学級で受けている状況。

- ・落ちつきが無い。あるいは不適応を起こす。そして学習には全く興味を示さない、という状況。それでいて通常学級にいる。実態に制度が追いついていない。
- ・突然教室を飛び出す子どもがいる。安全のために教員は即座にその子を探さないといけない。その間教室の授業はストップする。そんなことが何回か繰り返される状況になると、なかなか授業も進まない。職員室にヘルプの声がかかり、教頭校長が対応することも多い。やはり支援員を増やしていただきたい。
- ・授業で抜け出した子どもを追いかけて捕まえて、落ち着かない状況が増えると、今度は教室のほうで生徒指導問題が発生する。またそれに対応する。本来なら授業をしなければいけないが、それどころじゃない。悪循環がずっとある。
- ・発達障がい児でもトレーニングをすれば、全然治らないのではなくて、小さな時から訓練をしていけば大分良くなるという話もある。年齢が上がってからは難しい。薬が必要ならば合った薬を服用するとか、保護者がきちんと自分の子のことを理解して、早めに手を打っていくというのが大事。例えば市の何歳児検診とかの時に、その兆候があるんじゃないかなと、そういった時に保護者に説明をしてもらって、そして保護者もそれを自覚して小学校や保育園幼稚園にやるというふうに保護者も自然と理解できるシステムができれば、その子も救えるし、周りの子ども達も変なストレスを与えなくてすむと思う。
- ・生活支援員や特別支援教室の支援員の方々を一人でも二人でも増やしていただくと、事務作業をしているときに、この時間は支援員にお任せするとかいうようなことができる。やっぱりマンパワーというか、そういう仕事ができる先生とか職員が一人でも多くいれば、学校としては非常に助かる。
- ・発達障がいのほかにも食物アレルギー、喘息、アトピー、鼻炎などの諸アレルギー、生活習慣の乱れで落ち着きが無い、月曜日とか特に疲れている児童が多い。構って欲しいという低学年児童が非常に多く、労力がかかっている。
- ・発達障がいの事例として、授業中にグループで話し合いをしていく中で、発達障がいの子どもが作った文章に対して、他の子どもが指摘をしたら、その瞬間パーンと叩いた。なんの前触れも無く。また、他の子で授業中は先生方や支援員がいるが、昼休みも担任が運動場の朝礼台のところに漢字ノートと算数とプリントを広げて、丸つけをしながら、何かあった瞬間にパッと駆けつける体勢をとっていた。自分が思うようにいかなかったり、気に障ることを言われると、下級生でも叩きに来る。常に見ていなければいけない。

- ・このような時、まず子どもさんと保護者としっかり話し合う。こういう状況が今日はありましたと、密に話し合う。また被害にあった子どものところにも、やっぱり同じ日に行かなくてはいけない。そういったところが非常に大変なところだと感じる。先生達も一生懸命に取り組んでおられるのだが。
- ・発達障がい事例。何年も前に言われたことをバツと思い出して、突然相手のところに走って行って、暴力を振るうというのがあった。
- ・発達障がいの子どもで、喫煙があったために保護者を学校に呼び出したところ、すみません、と言うのではなく、逆に学校の悪口をまくし立てられた。保護者を説得するのも大変という状況。
- ・昔ならば特別支援学校とか、特別支援学級とか、学校がそういう判断をして保護者の方にも伝えて同意をしてもらっていたが、なかなか同意をしてもらえない。
- ・そのために通常学級に在籍をする、あるいは特別支援学級に在籍をするのだが、そうすると、世話をする人が足りない。支援員が足りないというのが現実。
- ・発達障がいの区別は、病院で判断される。診断書が出る。ただし、受診すること自体を拒否される保護者さんが多い。
- ・受診をするようにやっと了解をもらって病院に行く時に、休日であっても担任も付いていたりしている。実際の学校での業務以外での動きもある。
- ・発達障がいは、集団の生活とかあるいはコミュニケーション能力、感情のコントロールが難しいという状態。そういった生徒を特別支援学級とか、別に移すことは法的にできない。親も拒否して通常学級に入れてくださいと言うならば、見ざるを得ない状況。教師は通常学級全体に授業をするわけで、傍らにちょっと支援してくれるような方がいれば大分違う。そういった人員を増やしていただきたい。
- ・発達障がい児の傾向として、家族だけの家での普通の日常生活では特にトラブルが無いが、学校という集団になると、自分がどうやり取りしていいか分からなくなる。言葉であったり、行動であったりが適応できなくなる。そのため保護者が自分の子どもが発達障がいであることを理解・納得しがたいということもある。
- ・対症療法的になるかもしれないが、他の子ども達のストレスを解消してやるために、学習保障をしてやるために、興奮状況になった時に、その子にちょっとおいでと別室に連れて行って、別にトレーニングをしたり、授業をしたり、あるいは話をしたりというような時間も必要。
- ・また根本的に解決する方策として、医療機関という手立ても同時にやっていけないと思うが、それが、十分であるとはちょっと言えないような状況。
- ・不登校傾向の子どもについて、先生方が空き時間を利用して、授業を教えている。中学校に行っても困らないようにと、先生方が一生懸命にしてもらっている。その

分空き時間がなくて、事務の時間もできないという現状。不登校を無くすためには、小学校時代からつくらないというのが鉄則だが、親も学校に行かせきれない、親の指導が一貫していないとか、そういった子どもが年を追うごとに増えている。多忙感とは言わないが、事務の時間は放課後遅くにやっているのが現状。

### ○事務、部活動など

- ・教師が教えることで忙しくなるというのは、あまり苦痛には感じないと思う。教えることに専念できるような環境になってもらいたい。例えば学校集金。1年間で3300万円を超えている。それを手計算で、教師や事務職員が計算している。これを銀行振込などにしてもらえば、そこからは開放される。
- ・中学2年生になると職場体験学習があり、市内の企業さんに受入をお願いしている。毎年毎年受入れていただけない所があって、新規に開拓が必要。前任の学校では、新規開拓を商工会などで受け入れ先を全部調整してもらっていた。そこに学校の希望を割り振っていく。すると一発で受け入れ先が決まっていく。地域の企業等の連携というのをコーディネートしてもらおうと私達は大分楽になる。
- ・学校は一人一人に1年に1回、指導要録というのを書かなくてはいけない。加えて気になる生徒については、支援計画を、さらには発達障がい傾向が見られる子については、指導計画というものも作成しないとイケない。何十人も1人の担任が書いている。とんでもない数。それに部活動がある、生徒指導がある。本当に心を痛めて、学校を休みたいという状況も仕方がないのかなというぐらいの感じ。
- ・文書処理などが以前に比べて多くなっている。それから保護者対応、生徒指導、部活動、こういったところが中学校では、大きく職員の多忙化につながっている。
- ・多忙化はずっと抜けられないのかなと思うが、多忙感が残るといふのがある。先生が一生懸命やっても全然認められない。保護者からはクレームばかり来る、生徒からは良い顔をされない。徒労感だけが残る。それが一番問題と思っている。
- ・いろんな〇〇教育だとかいくつもある。性教育とか、障害者教育、金銭教育、防犯教育、薬物乱用教育だとか。それを全部学校でやるようになっている。一年に一回は講習会や〇〇教室を開きなさい、そのためには計画書を出し、終わったら報告書を出せとなる。これに追われてしまうということがある
- ・担任はとにかく子ども達がいる時間はずっと相手をするので、16時過ぎぐらいまでは子ども達と一緒に過ごして指導をしている。結局その後の時間が学級庶務とか保護者対応とかになるので退勤時間がどうしても遅くなる。当然管理職である教頭は最後まで残るので、帰る時間が21時過ぎとか、毎日続いている。当然土曜日曜も終わらない先生方は出勤せざるを得ない。
- ・児童数がどんどん減っているために職員の定数が非常に厳しい状況。学校内で級

外や加配が付けば、一週間のうちに1時間なり2時間なり、教材研究なり、採点なりできるような時間もあるが、そういう時間も今は厳しい状況で、職員がいないためにそんな時間もとれない状況

- ・分校を抱えており、やはり小さい学校だと、一人の分掌事務が複数になってしまう。例えば分校の職員が出張等でいないときに、本校から補充に行かなければいけないがその対応も難しい。欲しいのは人員。それが現場の声。
- ・県などからの照会文書は最近大分変わってきたと思うが、徹底的にメールでのやり取りで済ませて、紙媒体で提出というのを省けば、その分は楽になると思う。
- ・県のある同一の課から、似通った調査が複数きたことがあった。同じ課の隣同士で話ができているのかなと疑問に思う。

#### ○その他（学習指導、先生のレベル、支援策、先生の頑張り）

- ・子ども達が変わっており、学習意欲が低下していると感じる。ベテランの先生でも常に教材研究をしている。この前この学年を担当した時にこの資料でうまくいったけど、食いついてこないかもしれない、もう一つ工夫しようとか。昔の先生達はチョーク一本で教えていた印象だが、今は挿絵、ワークシート、そして電子黒板などを使いながら、より引きつける工夫をしている。非常に困難な状況。
- ・ちょっと気を許せば、学級崩壊になってしまうような危うさをかかえながら、先生方は必死でやっている。家に帰ってから22時ぐらいまではまず仕事という方も居る。学習指導もそうだが、一つ一つのことを丁寧にやらなければいけない、すごく労力を使う時代になったなと思っています。
- ・教員のレベルは上がっていると思う。若い先生方はソーシャルスキルトレーニングだとか、あらゆる学級経営の手法も勉強しているし、何でもできるというのが印象。ただ、人との距離感の取り方、親との距離感、子どもとの向き合い方、そういったところは難しい先生もいる。だから最後の最後に信頼されていない。
- ・今は、保護者対応や新しい問題に対応するとか、一人で全部解決をすることが多くなった。昔は同じ学年でも複数の教員がいて、聞きながら対応し、自信をつけて、保護者にも自信をもって話ができ信頼関係を築いていった。今は学年1クラスで、若い先生でも一つの学年の対応を考えなければいけない。
- ・以前は、先輩の先生から頭ごなしで言われていたが、今の若い先生方にはそういう指導はできない。精神的なタフさの部分がかなり違う。あんまり強く言い過ぎるとしよげ返ってしまったりする。
- ・教員のレベルに個人差はあると思う。原因は、教員採用の倍率が低くなっている点がある。良い人はとてもいいのだが、定数ぎりぎりのライン、ちょっと厳しいかもしれないけれどもという人もいるような気がする。

- ・小学校は今、週 29 コマある。そのうち先生の授業時数が 26 コマ。なので、週 3 時間が空いているという状況。26 コマは多すぎではないかなと思う。例えば 1 日 6 時間のうち 1 時間空き時間があれば、先生方も大分違ってくる。授業の教材研究や評価などに使うことができる。
- ・今度から入ってくる英語や、女性の先生に不得手の方が多い体育の授業など専科の先生を付けていただければ非常に助かる。
- ・市民の中で退職された方たちに学校応援団みたいなボランティア組織をつくるというのはできるだろうか。土曜寺小屋というのをやっているが、協力してもらっている。昼間にちょっと対応してもらえるシステムがあれば助かる。
- ・教員にも再任用制度はあるが、再任用は定数に入る。定数に入るなら、再任用の先生に来てもらうよりも、正規の先生の方がいい。
- ・学校や先生が頑張っていることを宣伝してもらいたい。例えば、部活動で頑張っているよとか、ボランティアとか。各学校の良さをアピールしていただきたい。
- ・市報などで子どもの頑張りを PR することなどは、最近充実させている。しかし、先生がよく頑張っているよ、というのを PR するというのはどうだろう。
- ・体育大会など先生が主人公になって、子どもが脇役になると本末転倒。子ども達が頑張った裏には先生達の努力があって、体育大会ができています。保護者とか地域が、今年の体育大会はよかったねという話の裏には、実は先生達の努力がある。
- ・学校から、学校便りで先生がこれだけ頑張りました。だから子ども達がこんなに良くなりました、なんていうことを書くと逆に批判を浴びる。
- ・例えば文化祭とか体育大会に、学校に来ていただくと、もうその姿を見ただけで職員は嬉しいんだろうなと思う。そして、良く先生達頑張ってもらっているねと言ってもらえれば、全然違う。多忙感については報われるのではないかと思う。
- ・このテーマは、これで話が終わって、何かを計画にまとめて次に何かできるというそういう話ではない。これからもずっとエンドレスで続く話。
- ・校長先生方に毎回毎回来ていただくのも大変だろうと思う。少しテーマが絞れた、あるいは意見がまとまったところに、また来ていただくこととしたい。次回は戦略会議のメンバーで議論をしていきたい。

## 5 その他

### (1) 次回開催日

- ・ 9 月開催で日程調整を行う。

( 1 7 : 1 0 )